2021年度活動報告と2022年度取り組む課題

東園　大輝

Ⅰ　学習支援

この学習支援は、ひとり親世帯や生活保護世帯など、主に塾に通えない世帯の中学生を対象としたもので、学習機会の格差是正のために名古屋市が行う事業の一環である。わたしが通う味鋺では毎週火曜日と金曜日に開催され、わたしは金曜日に参加している。この学習支援の課題は何といっても参加率の低さである。生徒からお金をもらって開催しているわけではないで来てもらえないこともある。ここ最近は参加率が低く、会場に行っても生徒が来てくれないことも多くある。そんなときはゼミの課題を進めている。この活動で特に印象に残っている3名の生徒を紹介しようと思う。

1人目は中学3年生のみよしさんである。みよしさんは私が初めて関わった生徒である。はじめて接したときから、「この子の受験が終わるまでは応援したいな」と思った。みよしさんは参加率がたかく、意識を高く持って学習に取り組んでいる。当初掲げていた志望校には学力も内申点も届いている。しかし、彼女には声優になりたいという夢があり、進路をそのまま高校にするのか、養成所に通いながら通信高校に行くかの選択で悩んでいる。中学3年生の時点で本当に挑みたい夢があるということにわたしはまず尊敬する。彼女がどんな進路選択をしても応援していこうと思う。

2人目は中学2年生のよしださんである。よしださんは中学1年のはじめのほうから不登校となってしまい、現在でもあまり通えていない。また、学習支援にもあまり顔を出せていないようである。なので学習もあまり進んでおらず、方程式や正の数負の数の計算で躓いてしまっているという現状である。こういう子こそ行政で手を差し伸べねばならないと思う。不登校とは、決して本人だけの責任ではない。あまり学校に行けていない子を救うには放課後学習支援では不十分だし、そんな子を救う制度が必要なのではないかと思う。

3人目は、中学2年生のサントスくんである。わたしもまだ一度しか会っていないが、少しずつ学習支援に来られているようだ。彼もあまり学校に行けておらず、学習の進度も遅い。しかし説明したら理解してくれるし、たくさんのこと（勉強以外）を聞いてきてくれるのでとても楽しい。よしださんとサントスくんの進路も見守っていきたいと思った。

この有償ボランティアを始めたきっかけは、労働時間と労働量の割に給料が良かったからであるが、始めて見ると自分も様々なことを学ばせてもらっているのだと気づかされる。実際の中学生たちが抱える問題や悩みを直に感じることができるし、そして自分の復習にもなってとてもよい機会となっている。今後もこの子たちと新しい生徒を見守っていきたい。

Ⅱ　私はわいわいフードパントリーにボランティアとして6月から継続的に参加した

2021年6月13日　フードパントリーin上飯田
9：30　電車に乗る

9：50　到着
10：45　雨がぱらつき始めたため、予定より早く開始
11：45　反省会＆解散

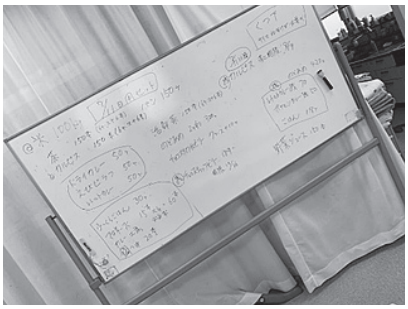
2021 月 6 月 20 日　フードパントリー in 味鋺
9：10　電車に乗る
9：35　到着＆準備開始
10：30 頃　引換券の配布が終わる。
11：00　パントリー開始
11：15　終了＆片付け

2021 年 7 月 11 日　上飯田　フードパントリー

この日の学生ボランティアの参加は私だけだった。しかしわたしは過去二回の参加でそれなりに顔見知りの方も増え、杉崎さんにも認知して頂いていたのでやりづらさなどはなかった。この日のわたしの仕事は、配布前は主に食材などの運搬で、具体的な食材を見ることが出来なかったので、ホワイトボードの写真を撮っておいた。猛暑の中での食材の運搬はとても大変でとても汗ばんだ。配布が始まってからは、わたしは後ろのほうの食材を前へ出す品出しのような仕事を行った、これも猛暑の中でとてもきつかった。

この日の私の主な活動の流れは、集合→米の運搬→食材の運搬→配布の開始→テントの片づけ（一つだけ張っていた）→反省会というものだった。

今回の利用者さんを見てみると、やはり高齢者の方々が多かったように思う。毎回来てくださる方の顔もすこし覚えてきた。高齢者の方のほうが若い人よりも足を運んでいる理由については、また考えていきたいと思う。味鋺のほうでは、CBC の局の方がボランティアとして来てくださり、インスタグラムなどで発信してくださっている。今後、色々な層の方が来てくれるといいなと思っている。



8 月上飯田

この日は、中日新聞の取材が来た。ラジオ番組？ YouTube の配信？があり、わたしも謎の出演を果たした。愛知県の大村知事が登場し、子ども食堂について語っていた。県として子ども食堂を支援していきたいと話していた。

P.S 大村知事意外と背低い

9 月

この月は野菜が多かった。夏の野菜をまわして頂けたのだろう。

10 月

この月は寝坊してしまった。しかしアイスを頂いた。その写真を載せておく。

気づきと考察

初めて参加させていただいたのが 6 月なので合計 12 回ほど参加させていただいていることになる。今では顔も名前も覚えてもらい、かわいがってもらっているので楽しく参加することが出来ている。毎回の主な活動は、朝の 9 時半から 10 時くらいに集合し、手分けして様々な作業を行う。その日に渡す予定の食材を袋に詰たり、野菜を小分けにしたり、お米を均等な量にわけたり、食材の入った袋と交換するための引換券（先着 150 枚）をくばったり、男手は長机を運んだりすることもある。また夏には、テントの設営などもある。わたしはここ最近ずっと子ども用のお菓子をくばる作業を担当させていただいている。笑顔を意識して行っている。元気よくありがとうと言える子がいる一方で恥ずかしがっている子がいたり、ムスッとしている子もいて面白い。　このわいわいフードステーションで印象に残っていることを 3 つほど紹介したいと思う。

一つ目は、6 月の第 3 日曜日の出来事で、当時わたしは北医療生協あじま診療所でのはじめてのボランティア活動であった。そしてわいわいフードパントリーが広まり始めた時期でもあり、それによる問題がいくつか生じていた。利用者さんの人数が増えたことにより長蛇の列が歩道の交通を妨げていたり、フードドライブは行っていないのにも関わらず車で来てしまいとなりの飲食店に無断駐車してしまう利用者さんがいたり、「子ども食堂」なのに高齢の方ばかりという批判を受けたり、引換券と袋の交換までの導線がスムーズにいかないなど、問題は山積みであった。そんな中、その日の工程が終了した後の反省会での運営の方々の熱意に圧倒されたことである。皆で意見をぶつけてよりよくしていこうとしている姿がそこには見られた。利用者さんたちの前では笑顔でいろいろな人と話す姿が印象的だったので余計に驚いたのだと思う。いろいろなところから寄付を募り、子ども食堂の開催は難しいが地域の人とのつながり、地域の人のために奮闘する姿に胸を打たれた。微力でもこの人たちの力になれればと思った。これ以降、わたしは日曜日に早起きしてボランティア活動をした自分を帰り道に少し好きになれるようになった。これは私が今でもボランティアを続けられる理由のひとつなのだと思う。

二つ目は、七月の第二週、11 日の上飯田での出来事である。六月ごろから、気温が上がってきたことによりテントの設営をするようになっていた。しかしその日は前日から天気もくもりで比較的涼しいという予報がでていたこともあってテントの設営を行わなかった。当日の朝は実際に曇っていたのだが、配布数十分前に天気が快晴になり雲がほとんどみえなくなっていた。気温も 30 度前後でとても暑かった。すぐにテントを設営することはできない

ので食材の上にのみ日よけのテントが設営された。すると利用者の女性の一人が熱中症のような症状になってしまったのである。配布は続いていたが一時騒然となった。過呼吸、震えなどの症状があり、マスクの中で嘔吐してしまったようだった。これ以降、9月10月まではテントを設営するようになった。この事案は、大事には至らなかったが運営側の判断に非があった。同じようなことが起こらないように教訓として私も今後発言できたらいいと思った。

三つ目は、12月の第二週の上飯田での出来事である。この日特に利用者さんが多かった。袋詰め作業を行っている時にわたしは列の整理を担当した。その時に見た光景が忘れられない。秋学期に読んだ「貧困とは何か」にあったように服装などの装いで貧困がわかってしまう瞬間がある。母親と小さな女の子と高校生くらいの男の子の三人の家族で利用していた。このわいわいフードステーションは1世帯につき1枚までのルールがあるにも関わらず、その家族は高校生の男の子を少し離れたところに立たせて配布券を二枚もらおうとしていたが配布を担当するひとにバレて失敗していた。この時にわたしは本当にこのフードパントリーを生活のために必要としているという事を知った。このフードパントリーを利用する人たち150世帯の全ての人が本当に必要としているわけではないのかもしれないが、この活動は簡単に辞めることはできないのだろうと思った。

この半年間でわいわいフードステーションではいろいろなことがあった。私がこれまで持っていた貧困やボランティアなどのイメージを大きく変えるきっかけになったし、様々な人に出会うことができた。わたしはこの活動を卒業まで続けていくつもりなので、今後は利用者さんの声を聞いてみたい。また、きちんと記録をつけるなど自分に出来ることを続けていきたい。

Ⅲ　2022年度取り組む課題

わたしは、一年弱フードパントリーの活動を続けてきたなかで課題を見つけた。それは、寄付される品が不足したりして安定しないことである。フードパントリーという活動は主に企業などからの寄付で成り立っている。今までボランティアを経験してきた中で寄付される品が多い月もあれば少ない月もあった。そんな中でもお米はフードバンク愛知などからたくさん寄付をいただいていて、パンは敷島製パンから多く頂けるので安定している。お米とパン以外の寄付が安定しないのである。レトルト食品やスナック菓子や飲料や「おくすりのめたね」などのゼリーもあれば、消毒用のアルコールもあった。これらの品が安定しないということはこのフードパントリーを必要としている人にとっては死活問題である。お米やパンが安定していてこれらの品が安定しない要因はいくつか考えられる。まず、パンは消費期限があまり長くないが、レトルト食品は長い。つまりパンは短期間で消費しなければならないので寄付に回ってくるが、レトルト食品は保存できる期間が長いので商品として扱える期間が長いのではないかと思う。そして最大の理由は安定して供給してくださる企業の存在があるのかどうかだと思う。パンは毎回敷島製パンあんがたくさん寄付してくださるのですごく安定しているし袋のボリュームが増すのでわいわいの人も頼りにしていると思う。お米も毎回次の月の分の用意ができるほど頂ける。

ではこのお米とパン以外の寄付を安定させるためには何が必要で、わたしになにができるのか。それは利用者さんの声を寄付してくださる方に届けることであると思う。私はボラン

ティアを行う際、利用者さんに袋を手渡す係をやらせていただくことがある。その際、「いつも本当にありがたい」だとか「お米は本当にありがたくて感謝している」といった言葉をかけてもらうがその言葉が寄付してくれた人たちのところまで届かないことにもどかしさをおぼえる。また、利用者さんの言葉が寄付してくださる方々に届けばこれまでより寄付が安定するかもしれない。フードパントリーの感想や、企業の方への感想など利用者さんの声を集めたい。また、どのような品がよろこばれるのか調査してみたい。それらの言葉や結果を企業の方に伝えてボランティア以外の形でわいわいに貢献していきたい。